

ティーチング・ステートメント

所属 薬学部 薬学科
名前 大野 裕昭
作成日 2021年4月15日

【責任】

薬学教育学分野に所属し薬学教育、特に ICT を利用した教育法に関わる研究活動、ICT を利用した教育の支援、教育システム管理などを行っている。教育活動としては情報処理法・薬学生入門・介護福祉体験実習・衛生・医療薬学実習・総合演習 II・実務実習・卒業研究を担当している。その他に低学力学生の支援や薬学共用試験 CBT の実施運営を行っている。また、授業で利用する様々なシステムの導入の検討、導入後の利用支援やメンテナンスを実施している。

【理念】

薬学科で学ぶ学生は、卒業して薬剤師になることが目標である。薬剤師となるためには、単なる知識だけでは、十分な職能を果しえない。自ら考えて行動する必要がある、系統化された知識を利用できる様にして身に付けておくべきである。単なる文言を知っていることだけではなく、その文言の背後にある概念をとらえておく必要がある。また、日々世界が変容していく中で、新たに必要とされる知識を自ら見出し、身につけ利用していくことが重要である。

学生がこのような、態度・スキルを身に付けられるように、授業内外での指導を心がけていく。また、学生の学習をよりよく進めるため、教員の授業改善の支援を行う。

【方針・方法】

理念を具体化する方針として、学習の要点すなわち身に付けるべきことの明確化、学習の深化、集中力を維持する授業形態、学習のこまめな振り返りをすることが有効であると考えている。また、ICT システムを利用し、時間や場所の制約から解放された学習環境を構築していくことが重要と考える。

方針 1：学習の要点の明確化

方法：パワーポイントの文字だけで説明するのではなく、静止画・動画・音声などの異なる伝達法を利用して、学生に誤りなく伝えること心がける。

方針 2：学習の深化

方法：知識の利用に関する具体例を上げて、「使う知識」を意識させる。また、重要語句や概念を学生同士で説明することにより、学習を深める機会を作る。現実の中でその概念が当てはまる例を探しだし、学生同士で共有させる。

方針 3：集中力を維持する授業形態

方法 1：授業途中で休憩を入れる。

方法 2：声の抑揚をつける。

方法 3：学生同士が議論する時間を確保する。

方針 4：学習の振り返り (LMS のコースを利用して種々の課題を実施しそれらを保存し、学生がいつでも自分の学修を振り返られるようにする;学習ポートフォリオとしての利用)

方法 1：小テストを実施する。授業の前の予習テストを実施し、前回までの学習を振り返り、当該回の授業につなげる。授業後に小テストを実施し、知識の確認をする。

方法 2 : 授業後に、授業内容の概要をまとめさせ、学修の内容を再認識させる。

方法 3 : 実施した課題を共有する。他の学生の実施状況を知ることにより、自身の学修を振り返る。

方針 5 : 学生の学習の仕方の改善

方法 1 : 学生との面談で学習法を確認し問題点を洗い出し改善をうながす。

方法 2 : いろいろな学習法を紹介する。

方針 6 : 授業改善支援

方法 1 : 学科内 FD において、moodle や問題演習システムの活用など、さまざまな教育手法を紹介して授業改善を進め、学生の学習環境を整備する。

方法 2 : テスト理論を基礎に、試験結果の解釈や問題作成のスキルアップを行い、学習の評価を改善する。

【成果・評価】

- ・ 授業アンケートの評価
- ・ 学生の学習法の改善
- ・ moodle の使用頻度、使用傾向(ログの解析)
- ・ 問題演習システムの使用頻度、成績解析(ログの解析)

【目標】

- ・ 学習相談を継続する。
- ・ 新たな授業法などの情報を収集し、学科内 FD などを実施する。
- ・ 実施したテストの解析を行う。